

## ティーチング・ポートフォリオ・チャートの大学体育への適用： 教職歴 30 年の大学教員の事例報告

木内敦詞<sup>1)</sup>

### Application of the teaching portfolio chart to physical education for higher education: A case report on a professor with 30 years of teaching experience.

Atsushi KIUCHI<sup>1)</sup>

Key words: self-study of teaching, scholarship of teaching and learning, preparing future faculty

#### I. はじめに

ティーチング・ポートフォリオ (Teaching Portfolio : 以下, TP) とは, 自らの教育活動について振り返り, その記述を根拠資料によって裏付けた厳選された記録であり, A4 版で 8-10 ページほどの本文と根拠資料から構成される文書である (セルディン, 2007)。TP 作成の目的は, 「教育改善」と「教育活動の可視化」である (栗田・吉田, online)。中央教育審議会答申「学士課程教育の構築に向けて (文科省, 2008)」における大学に期待される取組として, 教員の人事・採用の際の業績評価に際して, 研究面に偏ることなく教育面を一層重視することが挙げられ, その具体的な方策として TP の導入・活用が推進されている。TP は欧米では教

員の教育業績評価資料として広く普及している一方で, 日本では普及途上であることが指摘されている (栗田, 2020)。

栗田・吉田 (2018) によって開発されたティーチング・ポートフォリオ・チャート (以下, TP チャート) とは, 教師としての教育活動を振り返って自己の理念を見出し, その理念を活動の方針や方法と紐づけて教育活動を見直すための A3 版のワークシート (図 1: 栗田・吉田, online) である。その特徴として, 個人の教育活動を視覚的に整理できること, 自己省察による俯瞰と構造化ができること, 短時間で作成が可能であること, が挙げられている。

筑波大学体育センター紀要である本誌「大学体育研究」は, 2020 年 3 月発行の前号 (第 42 号) より, 新たな投稿区分として「ティーチン

---

1) 筑波大学体育系

Faculty of Health and Sport Sciences, University of Tsukuba

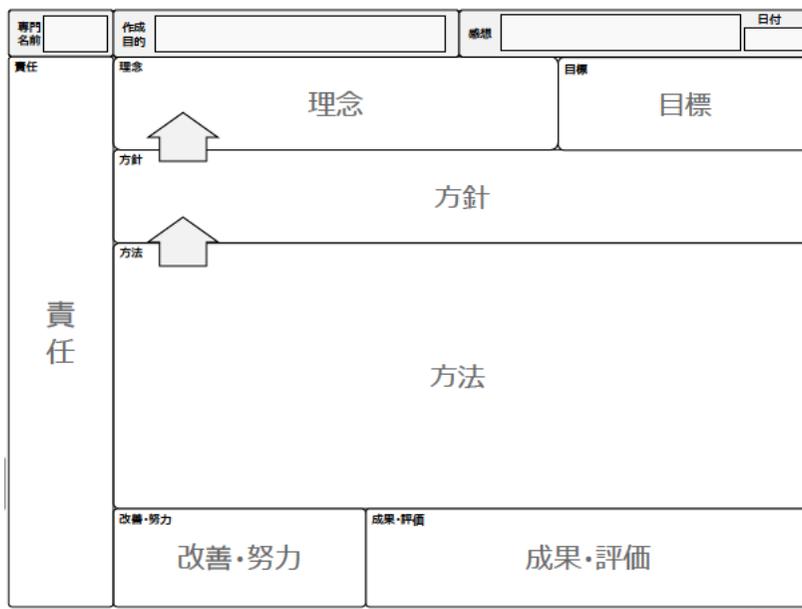


図1 栗田・吉田 (online) によるティーチング・ポートフォリオ・チャート (TPチャート) の枠組み

「ティーチング・ポートフォリオ」と「コーチング・ポートフォリオ」が設置された。前号では、1教員の教育活動全般のTPではなく、1科目の授業実践に絞ったコース・ポートフォリオ論文(木内, 2020) 1編のみが掲載された。今後、本誌への教育実践記録に関する論文が蓄積されていくためには、大学体育や大学スポーツに関するポートフォリオの普及につながる情報を集積していく必要がある。

以上より本稿では、TP作成に向けた準備としてのTPチャート(栗田・吉田, 2019)を紹介するとともに、大学体育教員30年の筆者のTPチャートをその具体的な事例として提示する。

## II. TPチャートの作成の実際

TPチャート作成の流れは、教育活動の中で実際に行っている具体的な活動をまず挙げ、その後それらの背後にある考え方など、より抽象的な方針や理念に迫っていくというものである(栗田・吉田, 2018)。TPチャートは、教員が自身の教育活動について振り返ったことを大

小二色の付箋へ書き出し、区画化されたA3版のワークシートに、貼り付けながら整理していくものである。その詳細は、栗田佳代子氏のウェブサイト(栗田, online)を参照されたい。栗田氏ウェブサイトにおいて「動画をみてTPチャートを作成する(2時間17分)」「TPチャートの作成と見直しワークショップ(2時間39分)」が公開されており(2020年12月30日現在)、これを視聴ながらTPチャートを作成することができる。職場の同僚とペアで行うことが推奨されているが、1人でも取り組むことも可能である。本稿のTPチャートも、栗田氏のウェブサイトにおける動画を見ながら作成されたものである。なお、今回提示するTPチャート作成に際しては付箋を用いず、パワーポイント版のファイルを栗田氏ウェブサイトからダウンロードし、入力した。

TPチャート(栗田ほか, 2019)の枠組み(図1)へ、TPチャート作成の手順(表1)に沿って筆者が作成したTPチャートを、図2に示す。

表2に、筑波大学共通科目「体育」の教育理念および目標(筑波大学体育センター)を示

表1 TPチャート作成の手順

- 1 まず TPチャート左上部の「専門 名前」に、自己の専門の研究領域と氏名を書く。その右側「作成目的」に、TPチャート作成の目的を書き出す。その次は、左側縦の欄「責任」に、いま行っている教育活動を書き出す。
- 2 続いて、TPチャート下部の「改善・努力」に教育活動における改善と、改善を目的とした活動や努力していることを書き出す。その右側「成績・評価」には、教育活動によって得られた学生の成長を表す成果や、学生あるいは第三者からの評価を1つずつ書き出す。
- 3 TPチャート中央部の「方法」には、いつも行っている方法、重要だと思っっている方法を具体的に1つずつ書き出す。努力したり心がけている等の考えや姿勢ではなく、目に見える「行い」を書き出す。この際、類似した方法をグルーピングした後、その上側の「方針」を見出すほうがスムーズである(図2参照)。「方針」には、「方法」で書き出したことを見て、「なぜそれを行っているのか」という理由(=方針)を書き出す。その上部「理念」には、「方針」に書き出したことを見て、「なぜその方針をとっているのか」という理由(=理念)を書き出す。
- 4 ここまでの作業は、具体的な「方法」から抽象的な「方針」(下から上)へと書き出したが、これらの作業を一通り終了後、理念・方針・方法が対応しているかどうかを確認する際は、抽象的な「理念」から具体的な「方法」(上から下)へとうまく紐づいているかを見ていくことが勧められている。
- 5 これら書き出した内容「責任」「改善・努力」「成果・評価」「方法」を裏付ける根拠資料を小さな付箋に書き出す。これまでに根拠資料のない項目については、今後どのような根拠資料を用意できるかを考え、それを色違いの付箋に書き出す。
- 6 「方法」「改善・努力」「成果・評価」に関する具体的な目標を、色違いの大きな付箋に書き出す(図2で太枠で囲まれた付箋)。その後、TPチャート右上の「目標」に、今後達成したい、5年より先の長期的な教育の目標を書き出す。

注) 栗田ほか(2018)の書籍におけるTPチャート作成の手順の説明を整理した。

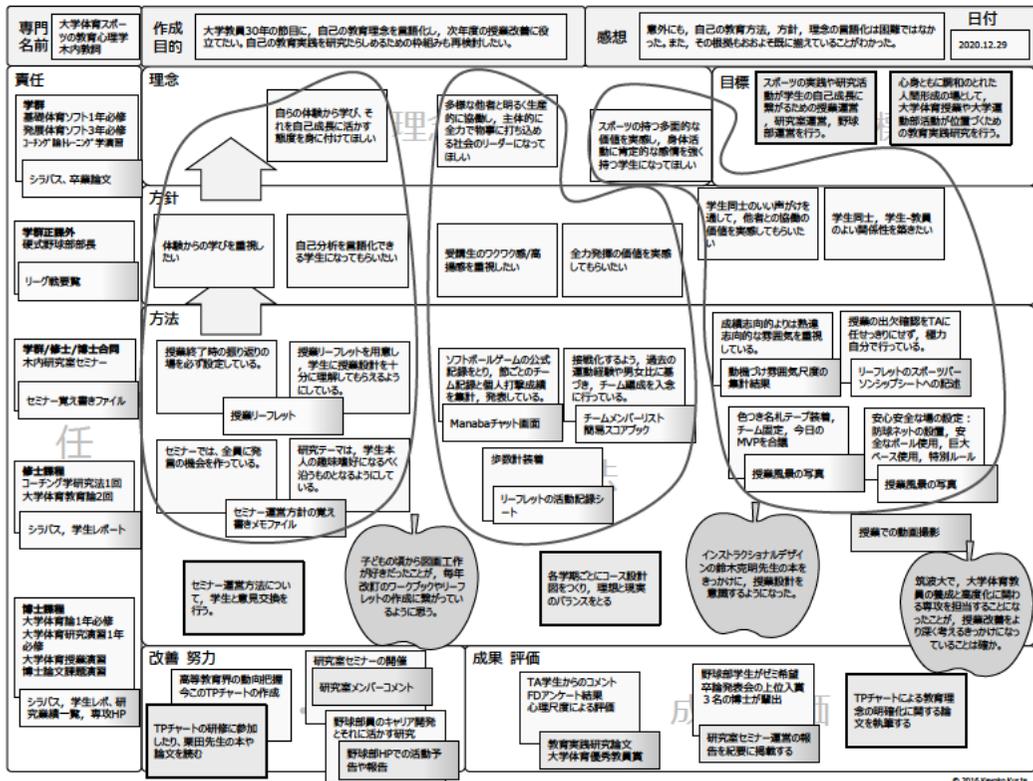


図2 ティーチング・ポートフォリオ・チャート (TPチャート: 栗田・吉田, 2018) への記入事例

す。表3は、2020年度秋学期における筆者担当のソフトボール授業の実践記録をまとめたものである。資料1は、筆者の担当した共通体育ソフトボール授業3コマ（基礎体育1コース、発展体育2コース）の実践記録である。表2に示すとおり、1年次基礎体育、2年次応用体育、3年次発展体育ではそれぞれ段階的な教育目標が設定されている。しかし、2020年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、春学期は全てオンライン授業となり、対面による実技授業は秋学期からとなったため、基礎/

応用/発展の区別なく、授業運営せざるを得なかった。筑波大学では学群/学類によって差異はあるものの、2020年秋学期に対面授業を実施したのは、フレッシュマンセミナー、実験実習、体育のみであった。受講者の中には、体育授業が唯一の対面授業である者もいた。なお、2020年秋学期開始に先立ち、対面授業を希望しない学生については、オンラインコンテンツによるオンデマンド授業で対応した。オンライン受講を希望した学生は、受講対象者全体の10.7%であり、1年次基礎体育では7.1%

表2 筑波大学共通科目「体育」の教育理念および目標（筑波大学体育センター）

教育理念	健やかな身体、豊かな心、逞しい精神を育む筑波体育	基礎体育	応用体育	発展体育
		1年次	2年次	3年次
教育目標	1. 健康・体力およびスポーツ技術に関する基礎的知識や思考力、実践力の養成	◎	○	○
	2. 豊かな心と社会性（コミュニケーション力、リーダーシップ等）の醸成	◎	◎	○
	3. 逞しい精神、高い倫理観の育成	◎	◎	◎
	4. スポーツ文化の知的解釈力・鑑賞力の涵養	○	◎	◎
	5. 自立的に自己を成長させ続ける力の涵養	○	○	◎

◎は主な教育目標、○は副次的な教育目標として位置づけられ、学年進行による段階的カリキュラムとなるよう配慮されている。

表3 2020年度秋学期におけるソフトボール授業（木内担当）の実践記録

1年次基礎体育	到達目標	(1)チームワークを高め、仲間とともに課題や目標に挑戦できる。(2)開いた心でスポーツを楽しむことができる。(3)順逆制勝を理解し、気づき、体現できる。(4)安全第一、効率第二を念頭に、練習やゲームの各場面を改善できる。(5)身体活動の価値を多面的に理解し、より活動的な日常生活を選択できる。(6)歩数計測を通じて、自己の日歩数を把握できる。(7)健康づくりのための身体活動基準2013を理解し、プラス10を実行できる。										
3年次発展体育	到達目標	(1)自己を成長させ続ける力を習得し、より豊かなスポーツライフを形成する。(2)チームワークを高め、仲間とともに課題や目標に挑戦できる。(3)開いた心でスポーツを楽しむことができる。(4)順逆制勝を理解し、気づき、体現できる。(5)安全第一、効率第二を念頭に、練習やゲームの各場面を改善できる。(6)身体活動の価値を多面的に理解し、より活動的な日常生活を選択できる。(7)歩数計測を通じて、自己の日歩数を把握できる。(8)健康づくりのための身体活動基準2013を理解し、プラス10を実行できる。(9)一歩前に踏み出し、失敗しても粘り強く取り組むことができる。(10)疑問を持ち、他者とともに知識を出し合って、効果的な練習や戦術を創造できる。										
授業概要	授業時間内におけるソフトボールの実践では、多様な他者と協働し、順逆制勝の体現をめざす。授業時間外の日常生活場面では、プラス10を適切に計画し、実践する。	▼：担当教員追加キーワード										
キーワード	コミュニケーション、チャレンジ、技術、スポーツマンシップ、実践力▼順逆制勝、自己開示、プラス10											
授業概要	授業におけるソフトボールの実践を通して、社会人基礎力（一歩前に踏み出す力、考え抜く力、チームで働く力）を高める。授業時間外の日常生活場面では、プラス10を適切に計画	▼：担当教員追加キーワード										
キーワード	自己啓発力、スポーツライフ、スポーツ文化、倫理観、スポーツマンシップ、チームワーク▼順逆制勝、社会人基礎力、プラス10											
期 間	チーム内練習期	第1節			第2節			クライマックスシリーズ				
場 所	野球場	多目的グラウンド			野球場							
回	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩		
課 題	授業設計の理解、班編成、ドリル4種	ドリル4種（捕球、送球、打球）を十分に行う	キャッチボールコンテスト⇒ゲームで技術水準の確認	キャッチボールコンテスト、併投ドリル	キャッチボールコンテスト、併投ドリル、外野ノック	野球場でのグラウンド配置、内野4箇所左右ボール返し	内野ゴロ掃りサーキット	内外野のゴロ掃りサーキット	試合前ノック、ゲーム中盤のミーティング	決勝戦、三位決定戦		
備 考	運動経験と男女比率を考慮し、8-10人×4班編成	打球ノーンを白線で区画し、安全確保	プレイぶりを参考に、女子ルールの具体的内容の検討	二塁近くのゴロに限定した併投ドリル、試合では女子ルール適用開始	女子のバウンド捕球の外野ノック	バックネット前に打撃用ネットを設置し、白線で区画したトス打撃3面またはティード打撃3面で、始業前から打撃練習やキャッチボール、ベッター等を実践できるように準備。						
始 業	授業設計の説明	本時の概要説明			打撃練習とキャッチボール			第2節までのチーム成績、個人打撃成績、本時の概要説明			本時の概要説明	
15分	予定・目標確認	アイスブレイク	キャッチボールコンテスト③m、併投ドリル	キャッチボールコンテスト③m、併投ドリル、外野ノック	10m四方で左右回りのボール返し			試合前ノック			打撃練習とキャッチボール	
30分	ボールハンドリング、キャッチボール（真下投げ、正面投げ、パラボリックスロー）⇒ペーパーマーカー打撃⇒トス打撃を各班で10分ごとにローテーション	攻守交代を3アウトではなく、4-5分の時間制で行う。打撃は50回。最終打者の次打者が、次回の先頭打者。安全対策として、投手と本塁の間に防球ネット（幅1.8m×横0.9m）を設置。二塁と三塁を面積4倍の大座ベースに。タッグプレイを禁止し、二塁も走者は通り抜け。2試合目から、女子ルールを発動。			個人打撃成績は、上座席前に設置して一塁手あり。冷却グッズ必須のこと。			試合前ノックは内野守備の各塁への送球機会が過度。冷却グッズ必須のこと。			後半の戦い方を話し合うための中盤の各班ミーティングは○	授業終了後も語り合う学生の姿が、例年より種々に多かったのが印象的。
45分					第1節での時間制攻守交代から、3アウト交代の正式ルールに移行。その他は第1節と同様のグラウンド設定と女子ルールを継続。							
60分					日用サプレッシャー等の確認							
75分		バックネット裏ベンチへ移動。手指のアルコール消毒。マスク装着。授業内歩数の確認。活動記録シートへの記述。スポーツバーンシップ（SPS）シートへの記述			個人打撃成績は、上座席前に設置して一塁手あり。冷却グッズ必須のこと。							
		活動記録シート記入の得点計算方法説明			班メンバーで本日の最優秀選手 MVP）選出の相談。選出理由を添えてMVP発表。MVPによるコメント発表						授業アンケート回答リーフレット提出	
日常生活の課題	毎朝起床時の体温記録。毎日の歩数記録。過去3年間の月単位の歩数のデータ取得											
省察メモ	キャッチボールの時間が短すぎた。感じた。	水分補給の指示をより明確に行うべきだった。	小雨の中での実技。フライボールを試みた女子が割に被弾。	女子ルールと投手の防球ネットは、ともに好評。	授業の枠組みが浸透してきた印象。	個人打撃成績は、上座席前に設置して一塁手あり。冷却グッズ必須のこと。	内野手からの送球を直線前に設置した一塁手あり。冷却グッズ必須のこと。	試合前ノックは内野守備の各塁への送球機会が過度。冷却グッズ必須のこと。	後半の戦い方を話し合うための中盤の各班ミーティングは○	授業終了後も語り合う学生の姿が、例年より種々に多かったのが印象的。		

資料1 受講者リーフレット (B5 版横 4 ページ: 色厚紙 B4 版両面印刷を 2 つ折り)

## 火③

### 基礎 ソフト

2020 秋

生物・地球・数学・物理・化学・創成・医学・看護・医療・芸術

※ 雨天時はオンライン授業に切り替え(manabaで連絡)

Streamで検索「共通体育\_ソフトボール」とすると、以下のコンテンツがヒットします

ソフトボール オンラインコンテンツの題目と概要

■ソフトボール1 上級者の技術 (奈良雅章)  
野球・ソフトボールの基本技術である「捕る」「投げる」「打つ」について、上級者の動作を参考に理解を深めます。また、「ピッチング」「打球処理」「運球プレー」などの応用的な技術についても、上級者の動作を参考に理解を深めます。

■ソフトボール2 技術解説 (金田健史)  
捕る-投げる-打つの技術解説を行います。「捕る」では、打者からの打球を正確に捕り、味方へ正確に送球するという2つの動作の連動を解説します。「投げる」では、ボールを正確に強く投げるためのボールの握り方や身体使い方を解説します。「打つ」では、ボールを正確かつ強くミートするためのスイング動作を解説します。

■ソフトボール3 練習解説 (木内敦詞)  
ソフトボールの技能を高めるためのドリル系の練習を紹介/解説します。アップ、ボールハンドリング、真下投げ、正面投げ、パラボリックスロー、ベッター、ダブルプレイ、フライ処理、ティークラス打撃、などを動画を見ながら解説します。

■各回のおおよその時間配分(分) : アップ10→チーム練習20→試合30→まとめ10

■体育授業での活動 ・パフォーマンスの改善  
・協同、自己開示、挑戦、没頭、順道制勝、スル-ツァル-ソソツァ?

■日常生活でのセルフケア ・体温記録(毎朝起床時、体育授業時)  
・歩数記録(毎日の歩数、過去3年間の月単位の日歩数)

■評価方法 (観点:材料) ・態度35点【授業内での経験】  
スポーツバーソソツァシート  
・技能35点【授業内での活動】  
活動記録シート(練習・試合の結果や歩数による活動ポイントの累積値)  
・知識30点【日常生活でのセルフケア】  
セルフケアシート(体温、歩数、過去の歩数)

■連絡先 木内敦詞 kiuchi atsushi.fw@u.tsukuba.ac.jp



ソフトボール自己技術評価

レベル	捕球	送球	走塁	打撃
五段 ソフト部	ゴロもフライも、5割以上安定して処理できる	送撃手として、三塁間の安定した送球ができる	適切な状況判断に基づく塁を処理できる	外野定位直まで届くライナーの打球をいつでも打つことができる
四段 素人上位	ゴロもフライも、7割程度は処理できる	三塁ゴロを捕球後、一塁へ安定した送球ができる	適切な状況判断に基づく塁を処理できる	ベッターで、20球連続して、0または1バウンドで相手に打ち返せる
三段 素人中間	ゴロもフライも、5割程度は処理できる	10%の距離からのスローピッチで、10球中5球のストライクを送球できる	いつも全力疾走できる	ベッターで、10球連続して、0または1バウンドで相手に打ち返せる
二段 初級上位	キャッチボール練習時に、クラブ練習場をボール軌道に開けることができる	10%の距離でのキャッチボールが成立する	全力疾走しないときがある	ベッターで、3球連続して、0または1バウンドで相手に打ち返せる
一段 初心者	キャッチボール練習時に、クラブ練習場をボール軌道に開けることができない	10%の距離でのキャッチボールが成立しない	全力疾走しないことが多い	ベッターで、相手に打ち返せない
10月	格	格	格	格
11月	格	格	格	格
12月	格	格	格	格

②④⑥⑧⑩の授業終了時、自己評価しましょう。

学生番号

しめい

氏名

出身都道府県

高校

このリーフレットには、ボールペンで記入してください。

↑ ↓

↑ ↓

↑ ↓

↑ ↓

活動記録シート	練習									
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
火曜	10/6	10/13	10/20	10/27	11/5木	11/17	11/24	12/1	12/8	12/15
非接触型体温計	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃
ドリル名										
▶ コンテストpt	20									
a 安打数										
b 進塁数										
c 補殺刺殺数										
▶ 個人pt abcの和×3	30									
▶ チームpt	20									
歩数										
▶ 身体活動pt	30									
▶ SPS pt										
本日のpt ▶の和										
累積pt										

# SPSシート

今日の授業の中で、スポーツバーンシップに通じるどのような経験や気づきがあったかを、具体的に書き留めておきましょう。

①10/ 6 火	
②10/ 13	③10/20
④10/27	⑤11/ 5木
⑥11/17	⑦11/24
⑧12/ 1	⑨12/8

## ヘルスケアシート

毎朝の体温測定と歩数測定を、この際、習慣づけましょう！ 継続して記録していくことで、自身の健康管理意識が高まるはずです。歩数は、スマートフォンの無料アプリを使うなど、各自で工夫してください。100円ショップの歩数計でも構いません。スマートフォンに過去の歩数データの記録がある人は、右側にこれまでとこれからの日歩数を記入

体温	wk1	wk2	wk3	wk4	wk5	wk6	wk7	wk8	wk9	wk10	wk11
	10/5~	10/12~	10/19~	10/26~	11/2~	11/9~	11/16~	11/23~	11/30~	12/7~	12/14~
月											
火											
水											
木											
金											
土											
日											
測定日数	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□
平均体温											

歩数計測手段— 例) iPhone ヘルスケア、apple watch

歩数	wk1	wk2	wk3	wk4	wk5	wk6	wk7	wk8	wk9	wk10	wk11
	10/5~	10/12~	10/19~	10/26~	11/2~	11/9~	11/16~	11/23~	11/30~	12/7~	12/14~
月											
火											
水											
木											
金											
土											
日											
測定日数	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□
平均日歩数											

## 3年間の日歩数の推移

2018年	1月		歩
	2月		歩
	3月		歩
	4月		歩
	5月		歩
	6月		歩
	7月		歩
	8月		歩
	9月		歩
	10月		歩
	11月		歩
	12月		歩
2019年	1月		歩
	2月		歩
	3月		歩
	4月		歩
	5月		歩
	6月		歩
	7月		歩
	8月		歩
	9月		歩
	10月		歩
	11月		歩
	12月		歩
2020年	1月		歩
	2月		歩
	3月		歩
	4月		歩
	5月		歩
	6月		歩
	7月		歩
	8月		歩
	9月		歩
	10月		歩
	11月		歩
	12月		歩

2年次応用体育では12.7%、3年次発展体育では15.6%であった。

### Ⅲ. 筑波大学におけるプレFDの現状と今後の展望

2019年8月の大学院設置基準改定（文部科学省、2019）における大学院生へのプレFDの努力義務化は、数年後の一斉義務化を前提とした文科省からの事前通告であると、各大学は理解し、準備を進める必要がある。プレFDとは、大学教員の能力開発を意味する faculty development (FD) を大学院生のうちから事前（プレ）に行うことをいう。欧米では、プレFDは Preparing Future Faculty (PFF) と呼ばれるため、プレFDは和製英語ということになる。

筑波大学は2020年10月、指定国立大学法人に指定されたことから、大学院生へのプレFDについても、他大学以上に先進的に取り組んでいく責任がある。すでに筑波大学では、毎年4月に3時間半にわたる全学TA研修会を開催しており、そのプログラムは、「筑波大学の教育改革」「筑波大学で用いる学習管理システム manaba」「授業補助業務とデジタル教育支援ツール」に関する講演、TAの役割理解のための模擬授業、TA業務について考える議論、さらにTA経験者との談話、によって構成されている（筑波大学、online）。さらに、大学院基礎科目「教育・研究指導Ⅲ（職業としての大学教育）」を開設していることから、大学院生へのプレFDを既に実践しているといえることができる。

体育領域におけるプレFDに関する調査（小林ほか、2012）によると、近年では学士教育課程で体育以外を専攻した学生が体育領域の大学院に進学するケースが増加し、保健体育の教職免許を持たない者が体育系大学院の修士課程で42.4%、博士課程で39.7%であった。したがって、将来の大学教員候補者である大学院生へのプレFDを今後検討するに際しては、体育

系大学院生であっても教職課程科目の履修歴のないことを前提としてプログラムを構成する必要があるといえる。その際、本稿で紹介したTPやTPチャートに関する知識やその作成経験は、大学教員としての教師効力感（垣田ほか、2020）の増強に繋がるものと思われる。

### Ⅳ. おわりに

以上、本稿ではTPチャートの紹介とその1事例を提示した。TPチャートはTPを作成するための事前準備として位置づくものであるため、今後は学修成果のエビデンスを含む詳細なデータの検討を進め、TPを作成することが望まれる。1つの授業科目を対象としたコース・ポートフォリオ（木内、2020；酒井ほか、2012）によって科目ごとの教育実践を詳細に記録することは、将来へ向けた教育実践記録の集積として、当該教員および科目領域にとって意義あるものと思われる。コース・ポートフォリオと並行して、1教員の行う教育活動全般、すなわち、教養教育、専門教育、研究室セミナー、正課外教育等も含めてTPを作成することは、教員自身の省察を促し、教育理念の明確化に繋がることから、教員の自己成長に直結するものと考えられる。

1990年代後半から米国で広がった試みとして、Scholarship of Teaching and Learning (SoTL: 教授と学修の学識) が知られている。SoTLとは、「教授（教えること）と学修（学ぶこと）」についての学術的探究を通してそれを改善しようとする試みやその成果として得られる知のこと（松下、2011）」、あるいは、「学者としての大学教員が教育を研究と同様に扱い、その成果を公表・批判・評価・利用すること（大山ほか、2017）」とされる。大学体育教員が日々の教育活動（体育授業や運動部活動指導）を生きた研究の場として位置づけ、その設計やプロセスや成果を「教育実践研究」として集積していく場として、本誌「大学体育研究」は貢献できると考える。

## 付記

本稿を執筆するにあたり、TPチャートを開発された東京大学准教授の栗田佳代子先生より、TPチャートの使用を快諾いただきました。この場を借りて心よりお礼申し上げます。

## 文献

垣田紗稀子・築山泰典・柿山哲治, 短期間の自然体験活動が大学生の教師効力感に及ぼす影響, 福岡大学スポーツ科学研究, 51, 13-26, 2020.

木内敦詞, ライフスキル獲得に関連する授業内の経験を振り返る大学体育授業: 自己開示, 他者協力, 挑戦達成, 楽しさ実感に着目して, 大学体育研究, 42, 3-14, 2020.

小林勝法・木内敦詞・嵯峨寿・奈良雅之, 体育学専攻の大学院生を対象とした大学教員準備教育に関する調査, 大学体育学, 9, 109-1116, 2012.

栗田佳代子 (online), Kayoko Kurita Lab ウェブサイト, <https://kayokokurita.info>, 2020.12.30. 参照

栗田佳代子, 大学院生のための教委研修の現状と課題, 教育心理学年報, 59, 191-208, 2020.

栗田佳代子・吉田 壘 (online), ティーチング・ポートフォリオ・チャート作成ワークショップ, [https://kayokokurita.info/wordpress/wp-content/uploads/2017/11/2017.11.26\\_TPCスライド\\_汎用\\_高校\\_v1.3\\_保護.pdf](https://kayokokurita.info/wordpress/wp-content/uploads/2017/11/2017.11.26_TPCスライド_汎用_高校_v1.3_保護.pdf), 2020.12.30 参照.

栗田佳代子・吉田 壘・大野智久, 教師のため

の「なりたい教師」になれる本!: TPチャートでクラスも授業改善もうまくいく!, 学陽書房, 2018.

松下佳代, FD ネットワーク形成の理念と方法—相互FDとSOTL, 京都大学高等教育研究センター編「大学教育のネットワークを創る—FDの明日へ」, 東信堂, pp.44-67, 2011.

文部科学省, 学校教育法施行規則及び大学院設置基準の一部を改正する省令の施行等について (通知), [https://www.mext.go.jp/b\\_menu/hakusho/nc/1420657.htm](https://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/nc/1420657.htm), 2019.9.26 通知.

文部科学省中央教育審議会, 学士課程教育の構築に向けて (答申), [https://www.mext.go.jp/component/b\\_menu/shingi/toushin/\\_icsFiles/afieldfile/2008/12/26/1217067\\_001.pdf](https://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2008/12/26/1217067_001.pdf), 2008.12.24 通知.

大山牧子・根岸千悠・佐藤浩章, SoTLに基づいた教育実践研究計画を作成するプレFDプログラムの試行と評価, 日本教育工学会論文誌, 41 (suppl.), 225-228, 2017.

酒井博之・田口真奈, 大学教員のためのコースポートフォリオ実践プログラムの開発. 日本教育工学会論文誌, 36, 35-44, 2012.

セルディン, P, 大学教育を変える教育業績記録—ティーチング・ポートフォリオ作成の手引き—. 栗田佳代子 (訳), 玉川大学出版部, 2007.

筑波大学, TAハンドブック, <https://www.tsukuba.ac.jp/campuslife/support-ta-handbook/>, 2020.12.30 参照.